

「きょうどう」の場となる 新たなまちづくりの取り組み —長野県宮田村における宮田市の展開—

細井 友美¹・佐々木 葉²

¹学生会員 早稲田大学大学院修士課程 創造理工学研究科 建設工学専攻
(〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1, E-mail:0208.fjgh@ruri.waseda.jp)

²フェロー会員 早稲田大学教授 創造理工学部社会環境工学科
(〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1, E-mail:yoh@waseda.jp)

地域には行政・地縁組織・特定の目的を持って活動するテーマ型組織等多様な組織が存在するが、これらの異なる属性を有する主体が関わり、継続的に活動していくことが地域まちづくりの課題とされ、そこでは行政と住民の協働及び住民相互の共同という、2つの「きょうどう」という概念が提示されている。また、具体的な活動の場の存在が重要となる。本稿では、こうした「きょうどうの場」という観点から長野県宮田村における新たなまちづくりの取り組み「宮田市（みやだいち）」という中心市街地でのマーケット活動の事例について報告する。

キーワード: まちづくり, きょうどう, 長野県宮田村, 定期市, 事業戦略

1. 研究の背景と目的

(1) 背景

地域においては行政、行政的側面を持つ自治会・町内会、氏子組織のような伝統的地縁組織、目的を持って活動するテーマ型組織といった、属性の異なる組織が活動している。地域の住民によるまちづくりの重要性が高まる中で、これらの多様な地域の主体が関わり、地域づくりを担うことが期待されている。組織が包括的につながる地域コミュニティ再構築に向けて、多様な組織の自主的・自律的な活動や組織間連携・ネットワークの構築が求められ、リーダー的存在や中間支援組織が重要となることが指摘されてきた¹⁾。また地域の様々な組織に加え、行政サービスの低下等新たな地域課題の解決に向けて地域運営組織の形成が必要であり国の支援が行われているが、従来の組織に関する課題同様に人材・資金・持続性等が課題とされている²⁾。こうした多様な組織間の関係を考える際に、羽貝は行政と住民や民間組織の協働と住民や民間組織相互の共同という2つの形をあわせて「きょうどう」と呼び、その重要性を指摘している³⁾。

このように、地域の主体が参加し関わりあいながらまちづくりが継続されていくことが重要であり、施設やオープンスペース・行事等多様な活動の場において地域のコミュニティが育まれる。活動の場を対象とした研究に

おいては、課題がある中でも場の存在・価値によって主体の関係や活動が継続していくきっかけとなることが述べられている⁴⁾。羽貝も「きょうどう」の具体的な事例を住民参加の手づくり公園の事例において解説し、公園づくりを通して公園という場を介した多様な主体のネットワークが形成され、行政や各組織が役割を果たし自発的活動が継続されることで地域づくりが継承されていくとしている⁵⁾。

(2) 目的

以上のような観点と関心から、本稿では、著者らも関わってきた長野県上伊那郡宮田村において開催されている「宮田市（みやだいち）」の事例を対象とする。

「宮田市」は、まちなかの神社や商店街・様々な組織の活動場所となっている施設等において、多様な主体が参加する場として2017年より始まったマーケットイベントである。住民と行政の協働の場であるとともに、中心市街地を介して住民の共同を図る「きょうどうの場」であり、定期市として定着することを目標としている。

宮田市における気付きや課題が、今後宮田村のまちづくりにおいても重要であると考えられるため、本稿ではその概要と経緯を、中心的な組織である「宮田村の景観を考える会」の活動及び関係主体と場に注目して情報を整理し、報告する。

2. 本研究に関する既存研究

(1) まちづくりに係る組織や制度に関する研究

組織間連携や活動の持続性に関する研究が行われており、その多くでは特定の取り組みや組織・施設等を対象として、人材や財源等の課題について示している。

水野ら⁷⁾は地域内のゆるやかな連携を目的としてパートナーシップ協定制度を創設している神戸市において、組織をグループに分け、組織・人材・財源・活動の観点からまちづくりの段階を考察している。北野ら⁸⁾は千葉県NPO法人に関して活動分野・内容とその連関及び活動頻度や場所を調べている。運営者の活動意識に関して意義や継続性を調べ、地域のまちづくり活動においては人・空間・活動・時間が相互に関係するとしている。

(2) 定期市やフリーマーケットに関する研究

まちづくりの観点において、イベントを対象にその重要性や課題を調べた研究が行われている。

藏田ら⁹⁾は趣味の創作活動を対象に材料調達・作品制作・作品販売等の段階と活動の場について調べ、参加者の活動形態による類型化を行っている。シェア工房がサポートや連携を担い活動を盛り上げる場として機能していると述べている。また、朝倉ら¹⁰⁾はフリーマーケットに関して主催者・出店者・利用者の意識や属性を調べ、寺社という空間の活用の可能性を述べている。

3. 宮田村の概要

(1) 地勢・人口・交通

宮田村は長野県上伊那郡の中央部に位置し、北は伊那市・南は駒ヶ根市に挟まれている。総面積54.50km² (2016年度末時点)¹¹⁾、人口9,022人、3,450世帯(2019年7月1日時点)¹²⁾である。太田切川左岸の扇状地である平野部と中央アルプス駒ヶ岳に至るまでの深い山地からなり、北東に向かって緩やかに傾斜した平野部は太田切川と小田切川・大沢川によって開析され、山麓には幾つかの小さな扇状地が発達している。

村内にはJR飯田線及び国道153号線・中央自動車道・旧伊那街道(県道221号線)等の主要道路が南北に通っており、11の行政区に分かれている(図-1)。

(2) 自然・産業

宮田村は2つのアルプスの山並みに囲まれ、川の流れや水路・水田がひろがる豊かな水資源を有している。

農業においては、稲作を中心にりんご等の果樹や花卉・野菜・そば等がつくられている。1970~1980年代に



図-1 宮田村の行政区と交通網¹³⁾

かけて全村で圃場整備が行われた他、農地の所有と利用を分離する独自のシステム「宮田方式」を有している。また、山ぶどうを用いたワインづくりのような地域特産物の生産振興及び6次産業化を進めている。

また、明治時代から昭和時代初期の製糸業が盛んな時期に製糸工場が多くつくられ、第2次世界大戦前その跡地に工場が疎開する等、第2次産業も重要な産業であり、精密・機械金属工業を中心とした工場団地がある。

(3) 歴史・市街地の沿革

宮田村は古くから居住が見られ、約6500年前の中越遺跡に代表されるように、台地に沿って集落がつくられてきた。奈良時代には東山道宮田駅が置かれ、鎌倉時代以降は豪族が館や城を構えたとされる。

江戸時代には伊那街道の宿場町宮田宿が成立し、南北約300mに40~50軒の家が軒を連ねた。後期には身分の高い人が休む建物である本陣が置かれ、現在も中心市街地に本陣跡が残されている。1913年には伊那電気鉄道宮田駅が開業し、駅前が整備された。

現在村の中心部は住居地域や商業地域として指定され、宮田駅や旧伊那街道沿いの商店街、役場等の商業・公共施設が集まっている。宮田村景観計画では、道路線形と土地利用がほとんど変化しなかった地域を、景観形成を図る4つのサブ区域「歴史保全区域」と設定し、宮田宿に由来するまちなかの地域は宮田宿区域としている¹³⁾。

(4) まちなかの活性化

まちなかには町家や蔵・水路・著名な祇園祭等文化・歴史的資源が多く残されている。一方で、商店街において後継者不足等により空き家・空き店舗が増えている。まちなかに人が集まり、活力のある・住みたいと思えるような魅力のある村を目指し、村全体での定住・移住を進める他、まちなかや商店街の活性化・空き家や空き店舗の活用を進めている。例えば、「空き家・空き店舗等活用事業補助金制度」や「誰もが活躍できるまちなか活性化事業」に対する地方創生推進交付金の交付(2017~2019年)等による支援が挙げられる。

4. 宮田村の景観を考える会

(1)概要

宮田市をはじめとして、宮田村のまちづくり活動を牽引する組織として「宮田村の景観を考える会」がある。この組織は、後述する長野県からのまちづくり活動助成金を受けることで、戦略的な活動を行っている。

その始まりは、2014年からの宮田村における景観計画・景観条例策定に向けた取り組みにある。景観計画策定の議論の最初期において、宮田村が行政職員・地域住民・学識経験者からなる「宮田村の景観を考える会」という議論の場を設定した。景観計画自体は、その後2016年に景観行政団体へ移行し、2017年に宮田村景観計画・景観条例を全面施行するに至っている。

「宮田村の景観を考える会」（以降、考える会）は、景観計画策定過程の途中から、景観計画という行政計画による景観まちづくりとは独立した、住民を中心とした具体的なアクションに取り組む任意団体として活動を行っている。代表は天野早人氏で、宮田村村議会議員を務めている。また、日本福祉大学の卒業生であり在学中から同大学と地域の連携活動を行う等、地域内外のネットワークを活かす活動をしている人物である。村外からは早稲田大学の佐々木と藤倉英世が参加している。

(2)事業戦略と活動理念

考える会は2016年から3年間長野県上伊那地域「地域発元気づくり支援金事業」及び宮田村「地域づくり支援事業」を取得することで、資金的な保証を得て事業を行ってきた。

地域発元気づくり支援金の申請にあたり、主体を景観計画策定のために行政が開催してきた勉強会の活動実績を引き継ぐものとした。また、支援金支給が原則3年を限度とすることから、3年間を助走・離陸・安定飛行期間と捉えて段階的かつ複合的に事業を展開し、以後は活動を軌道に乗せて自立運営していくという戦略を立てた。

考える会は、村の風景を理解してその価値を共有し、地域の特性を考慮しながら課題解決のために事業を行うという考えに基づき、景観まちづくりの活動を行うものである。したがって、景観保全・創出に必要な「村民全体の風景の価値共有・行政の総合的なマネジメント・協働による実践的活動」のうち、実践的活動の部分を担当べく事業を展開している¹⁴⁾。

まちなかの賑わいのイメージが徐々に弱体化する中で改めて歴史・文化的価値を問い直すことにより、上伊那地域の文化・交流拠点として将来にわたる賑わいの再生を促している。そのため、まちなかの活動として、「まちなかを、みる、しる、たのしむ、わかちあう」を合言

葉に、多様な団体と複合的な事業を展開することにより、「歴史、文化、福祉、賑わいが共存する新しいタイプの中心市街地」の実現を目指している¹⁵⁾。

(3)活動の複合的展開

考える会では、「文化/歴史/景観を活かす活動」・「賑わいと福祉の活動」・「情報/人材/ノウハウの蓄積」の分野¹⁴⁾において小さな活動を積み上げていくことで理念の実現を目指している。そのため、これらの分野を跨いで事業を実施し、積極的に行政や地域の主体とのきょうどうを図っている。その活動の全体概略を、支援金事業に伴う事業報告書¹⁶⁾を元に主要事業の目的・成果・課題について表-1に整理して示した。

この中において宮田市事業は賑わいと福祉の活動に該当し、事業戦略に伴い他分野と複合的に行う事業である。物販等を行う市・マーケットだけでなく、歴史・文化の魅力を発信する「みやだ探検ガイドツアー」・「宮田まちなか博物館」・「宮田村ガイドブック」（PR冊子の配布）とあわせて行い、アンケート・交通量調査の実施によって活動の効果を測りながら実施している。市・マーケット単体で見ても、宮田村及び愛知県田原市等友好都市の食材を用いた商品や名産品の販売、宮田村周辺で活動する主体によるステージ等様々なテーマを持つ地域のまちづくりの取り組みとしての側面を有する。

事業実施のために考える会が行う具体的な活動は、イベント等事業の企画・協議の他、支援金を活用した備品の購入及びチラシやポスターの配布・掲示、ホームページでの宣伝等による広報等である。特に情報発信については、複数の活動のブランディングを意識して、情報媒体のデザインに配慮している。また、活動の実績を実証的に把握するために、イベント時には形式を揃えたアンケートを実施し、団体の知名度やイベントの満足度等の継続的なデータを取得している。

(4)今後

考える会の活動は長野県地域発元気づくり支援金事業の2016年度上伊那地域優良事例に選定され、また、地元新聞にも数多く取り上げられてきた。

事業を複合的に行う中で延べ40の団体・企業等と連携し、運営のノウハウ・連携の枠組みや、住民間の連携・行政との協働の枠組み等活動の基盤が整えられてくる等、当初の狙いに即した一定の成果が得られている。

行政からの補助金という財源に代わる新たな資金の獲得を得て自立した活動を継続するために、これまでの活動成果をPRしながら企業等と連携する道を模索している。

表-1 宮田村の景観を考える会主要事業の目的・成果・課題

※ 平成30年度地域発元気づくり支援金事業統括書(2019.3)より作成, 2016-2018年分実施成果
* : 2019年度実施分を加筆(2019年8月時点)

| 分類 | 個別事業名 | 目的・概要 | 成果 | 課題 | |
|-----------------------|-----------------------------------|--|---|---|--|
| まちなかの魅力を再認識してもらう事業 | みやだ探検ガイドツアー | 歴史保全区域の歴史的建造物・景観・文化の魅力を知らしてもらうためのガイド付き散策ツアー | 13回実施 (*14回) 仮設説明版の作成・設置 マニュアル化 | ガイドの養成 外国人向けガイド・ 企業向け有料版ガイドの検討 | |
| | 宮田まちなか博物館 | 宮田宿・津島神社・祇園祭の魅力を発信する期間限定の移動博物館 古地図原寸大レプリカ・神輿の展示 ビデオ上映 パネル展示 | 12回実施 (*13回) 情報の集約された展示物の作成 展示物の他への貸し出し 村に寄贈された文化財のPR ノウハウ蓄積, マニュアル化 | 他歴史保全区域のパネル作成 | |
| | 宮田村ガイドブック | 住民や来訪者を対象としたガイドブック まち・やま・さとの美しい風景のPR *宮田市のPR | パイロット版「ようこそ宮田村へ」発行, *「宮田市BOOK」発行 ガイドツアー参加者・中学生に配布 宮田村・宮田村教育委員会での活用 | 飲食店などの紹介 他機関印刷物との住み分け・調整 有料化又は広告収入による改訂の検討 | |
| | まちなかの課題を共有する事業 | 講演会 トークイベント ワークショップ | 風景や景観が財産・地域づくりの資源となることを啓発 | 12回実施 参加者による意見交換 | 小中学生が実践的に学べる場を増やす |
| | | | 専門家や先進地関係者を招き学ぶ | 歴史的建造物所有者・中学生の参加 大学による宮田村調査研究内容の共有 | セルフビルドによる歴史的建造物改修など変化が目に見える形のワークショップを増やす |
| | | | ※ベンチづくりワークショップ, まちなか写真ワークショップ など | 参加者の景観を考える会への参加 ふるさと発見講座との共催 | |
| | | | | | |
| まちなかでにぎわいを創出する事業 | まちなか福祉オープンカフェ ※2018年度より宮田市に一本化 | 中心市街地に集まる多くの福祉施設が地域と交流する場をつくる | 5回実施 親愛の里シンフォニー・日本聴導犬協会・ 西駒郷(福祉施設)の参加が定例化 施設職員・利用者家族からの好感触 | 施設の特性上連携が難しい事例がある 企画による多様な連携方法の模索 | |
| | 宮田市マーケットin宮田宿 | のんびりと景観や文化を感じつつにぎわいを楽しめるイベントの定期開催を目指す 車両通行止めによる魅力的な環境づくり | 3回実施 (*4回) 従前の実施団体や商店街組合との調整 道路空間活用のための警察との調整 必要最低限の備品を確保 デザインやテーマの方向性を確定 | 継続開催し、出店料を見込みながら回数を増やしていく *第4回宮田市にて出店料徴収 (地元商店・ボランティア以外) 地元商店の参加支援 | |
| | | 従前のイベントの統合・同時開催 | 役場職員との連携 スタンプラリー・クイズラリー実施に伴う商店街の参加利用・認知促進 | 全体パッケージをマニュアル化, 過剰な負担が生じないよう効率化 連帯感が生まれるような出店配置・ 空間配置の再検討 | |
| | | アンケート・交通量調査 (早稲田大学と協力して実施) | 宮田村と関わりのある日本福祉大学学生が再び関わるための足掛かり *宮田市BOOKによるPR 継続開催の要望・出店希望の声 | ワイン祭りとの関わり方を模索 駐車場不足 | |
| | | | | | |
| まちなかにおける活動の継続性を確保する事業 | アンケート・交通量調査 | 参加者アンケートよりイベントの満足度やまちづくりについての考え方を把握 各種事業の検討材料として活用 | 13回実施 (*14回) 客観的数値化として事業の反省に利用 | 調査回数を減らし継続的に実施 | |



図-2 (左) 宮田ん屋の様子, (右) 宮田ん屋のチラシ表面

5. 宮田市の概要

(1) 発端

本章では、考える会の主要な活動である宮田市がどのように展開してきたかを述べる。

宮田市の発端は、2016年7月の祇園祭にあわせて行った「宮田ん屋(みやだんや)」である。祇園祭はまちなかで開催される祭りで、津島神社の石段から神輿を投げ落として打ち壊すことで著名である。宮田ん屋では、まちなか福祉オープンカフェ事業として、福祉関係施設・

まちなかで活動する店舗による出店及び来訪者の休憩所、歴史とまちなかの魅力を紹介する展示・ガイドツアーを複合的に行った(図-2)。

こうした異なる主体による複数の活動を同時開催することの意義や効果を元に、2回目以降の企画が検討された。

(2) 各回の様子

(1)の試みを受けて、2017年10月に祭りとは別の機会に複数の主体が参加する、まちなかで賑わいを創出する事業「マーケットin宮田宿」として「宮田市」と名付けたイベントが実施された。それ以降2019年5月までに4回開催され、本稿執筆時点で2019年10月開催の第5回が準備されている。

宮田市の狙いは、それまで村内で別々に活動していたフリーマーケットや一旦活動が停止していたトラック市・一部の商店主による活動等のマーケット系の活動を同日にまちなかで実施し、歴史の展示・ガイドツアーといった文化的な活動を連携させることで、相乗効果と情報発信力を高めることにある。具体的には表-2に示す諸

活動がまちなかの隣接空間で実施された。その中で、第2回のようにJR東海が主宰するウォーキングイベントという村への来訪者が増える機会を活かすことも行われた。

開催を重ねる中で、情報発信性を高めるためには定期開催が重要であるとし、春・秋の定例化が軌道に乗り始めた。さらに第3回からは、歩行者天国の実施により活動の場の多様化と空間の利用価値の高まりを得ている。チラシやのぼり旗によるイメージの統一も当初から心がけてきた。こうした取り組みによって、来場者の増加・活動希望主体の増加等の傾向が見られている。

今後の活動の展開と継続のために、この活動の趣旨と経緯をわかりやすく来訪者や周辺商店主にPRするための媒体として、小冊子「宮田市BOOK」（図-3）を作成した。編集と紙面デザインは早稲田大学景観・デザイン研究室において筆者らが行った。以下にこの小冊子の紙面も用いながら、各回の様子を報告する。

a) 第1回宮田市

2017年10月29日が宮田市としての初回である（図-4）。

当日は台風による悪天候のため、出店希望のあった48店舗全ての出店には至らなかったが、様々な年代の村内を中心とした人が訪れた。宮田まちなか博物館に83人・みやだ探検ガイドツアーに35人・ハロウィンイベントに52人が訪れ、天候に関する意見が多かったものの過半数の来場者が満足とした。

b) 第2回宮田市

2018年5月3日開催の第2回は、JR東海のイベント「さわやかウォーキング」にあわせて連休中に行い、遠方から訪れて宮田駅から駒ヶ岳のふもとに向かって歩く人にも楽しんでもらうイベントとなった（図-5）。

公民館においては、宮田村の自然や観光に関するパネル及び宮田村に寄贈された屏風や掛け軸の展示を行った。また、みやだ探検ガイドツアーのコースにあわせて蔵や本陣跡等の宮田宿に残る資源の前に説明版を置き、宮田全体の様々な魅力を発信する場とした。

JR東海さわやかウォーキングには160人・まちなかの施設の駐車場2カ所で開催したマーケットには200人が訪れ、その他の催し物には30~60人程が参加した。

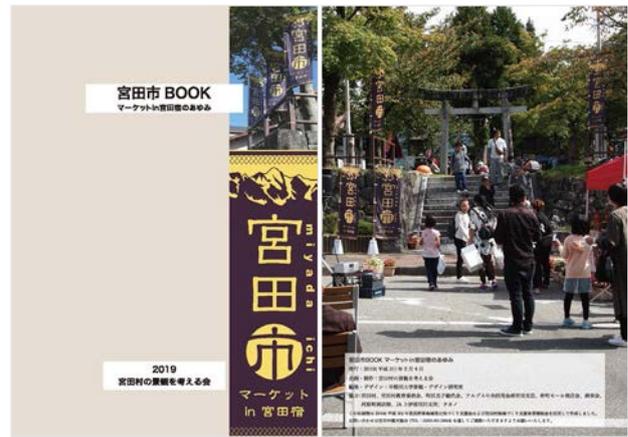


図-3 宮田市BOOK：(左)表紙、(右)裏表紙



図-4 第1回宮田市の様子（宮田市BOOK p.3-4）



図-5 第2回宮田市の様子（宮田市BOOK p.5-6）

表-2 これまでに実施された宮田市の概要

| 実施回 | 開催日時 | 催し物概要 | | | | | | |
|-----|----------------------------|-----------|--------|--------------|---|----------------------------------|-------------|--------------------------|
| | | 歴史展示 | 会場 | ガイドツアー | マルシェ、市など | 会場 | その他催し物 | 備考 |
| 第0回 | 2016年7月16日 | まちなか博物館 | 町2区公民館 | まちなか探検ガイドツアー | 手づくり商品販売、食品販売 | 町2区公民館 | | 祇園祭にあわせたイベント 宮田市のきっかけ |
| 第1回 | 2017年10月29日 10:00~16:00 | 宮田まちなか博物館 | 津島神社 | みやだ探検ガイドツアー | フリーマーケット、クラフト体験 農産物販売、オープンカフェ 飲料販売、ハンドメイド作品販売 | 津島神社 アルプス中央信用金庫宮田支店 オヒサマの森 | ハロウィンイベント | |
| 第2回 | 2018年5月3日 8:30~14:30 | まちなか博物館 | 津島神社 | みやだ探検ガイドツアー | 宮田市場in宮田宿 農産物販売、クラフト販売 | アルプス中央信用金庫宮田支店 オヒサマの森 | お宝展・観光案内所 | JR東海のイベントと合同 |
| 第3回 | 2018年10月13日 10:00~14:00 | 宮田まちなか博物館 | 津島神社 | みやだ探検ガイドツアー | 飲食物販売、農産物販売、ステージ クラフト体験 フリーマーケット | 商店街 津島神社 アルプス中央信用金庫宮田支店 | ハロウィンクイズラリー | 歩行者天国実施 9:00~15:00 |
| 第4回 | 2019年5月18日 10:00~14:00 | 宮田まちなか博物館 | 津島神社 | みやだ探検ガイドツアー | 飲食物販売、農産物販売、ステージ クラフト体験 フリーマーケット | 商店街 津島神社 アルプス中央信用金庫宮田支店 | 商店街スタンプラリー | 歩行者天国実施 9:00~15:00 |

c) 第3回宮田市

2018年10月13日開催の第3回からは、旧伊那街道の津島神社付近で車両通行止めを実施して歩行者天国として行った(図-6)。そのため道路上でテントによる出店及びベンチやテーブルの設置が実現した。

従来から行われていたフリーマーケットや歴史の展示・ガイドツアーに加え、クラフトや子供が遊べるものづくり広場・宮田村ゆかりの人等が楽器演奏や講演を行うステージ広場が行われた。また、この回から役場職員の有志による出店も行われ、準備作業においても多くの職員の参加が得られた。

歩行者天国によって、それまでにない道路を人が行き交い集う空間が実現した。アンケートでは約87%の人が満足と答えており、特に歩行者天国実施空間の会場における満足度が高い結果となった。

d) 第4回宮田市

2019年5月18日に第4回が開催された。第4回は第3回を踏襲しており、チラシや会場・催し物等がパッケージ化され、歩行者天国も実施された(図-7)。

歩行者天国のベンチやテーブルを増やして道路を広く使うステージに変更し、出店数も増加したことでより道路空間を楽しむことができるものとなり、賑わいが生まれた。歩行者天国の来訪者は約1,700人に増え、子供も多く見られた。その一方で来場者の駐車場が混雑する等の課題も生じてきた。

(3) アンケート・交通量調査と変化

歩行者天国を実施することによる交通影響を検討していくための参考データとして、簡易的に交通量調査を行っている。その結果によると、区間を出入りした歩行者が第3回は約1,200人・第4回は約1,700人であり、計画時の目標(500人以上)を大幅に上回る結果となった。チラシ等広告による認知が進み、来訪者数も増加してきた。

来訪者へのヒアリング調査からは、定期的に行うことや継続することが必要であるという意見や発展させるための意見等があり、継続事業としての宮田市に対する住民の期待が伺える。また、出店者の家族等開催に関わる主体の関係者も多く訪れており、村の住民に関わる場として来訪者に参加がひろがっていると考えられる。

(4) 関係主体

本節では、考える会実施事業に関わる様々な主体に関して宮田市主催・協力主体を中心に整理する(表-1参照、表-3)。

a) 行政

考える会は、景観計画の策定の間として設定されたことから、景観計画の所管である建設課との関係が深い。



図-6 第3回宮田市の様子(宮田市BOOK p. 7-10)



図-7 (左上) 第4回宮田市のチラシ表面, (右上) 歩行者天国の様子, (下) 第4回宮田市の会場地図

加えて、歴史・文化的資源の調査と発信（トークイベント事業と共催するふるさと発見講座の実施等）に関わる教育委員会との直接的な協働が行われている。軽トラ市に対する助成等商店街や中心市街地活性化の支援を行う産業振興推進室、企画を担当するみらい創造課との協働も行われている。

b) 福祉施設・従来組織・テーマ型組織

先述したように、宮田市は元々村内で定期市・マルシェ等を開催し活動してきた「ふれあいフリーマーケット」・「オヒサマの森マルシェ」・「みやだママサポートの会」及び休止状態にあった「軽トラ市」に対して、考える会がまちなかで連携する市の開催を呼びかけ、実現させてきたものである。加えて、まちなかに集まる福祉施設が参加して地域住民と関わる機会を創出している。

商店街組織・寺社関連組織や地域住民が自主的に活動する主体等は、例えば商工会が開催している夏の夜店・商工祭で商店街組織が連携する、あるいはみやだママサポートの会がふれあいフリーマーケットに協力する等個々における連携も見られるが、宮田市においては多様な主体が共同している。

c) 教育・研究機関

教育・研究機関が事業に関する助言や実施を手伝う他、事業の資料作成やマニュアル化、当日の出店・作業等にも携わり、事業を跨いで連携している。

早稲田大学は景観・デザイン研究室が景観計画策定に携わって以来研究・活動を行い、日本福祉大学は考える会代表の天野氏による従前からの連携活動も踏まえ、村出身の学生が参加する等、長期的に地域との強い関係に基づいた協力がなされている。

(5) 施設・場所

宮田市は古くから人々が活動してきたまちなかの、津島神社等の寺社と宮田宿の名残がある商店街が主な会場である。各回の会場及び関わった主体の活動場所や拠点とする施設、その第4回までの蓄積を図-8に示す。

まちなかは祇園祭でも従来組織を中心に屋台等が出店される他、オヒサマの森・アルプス中央信用金庫宮田支店等はテーマ型組織が行ってきたイベントの会場としても用いられ、共同の場としての性質を持ってきた。個々の会場自体も地域の様々な主体が関わりあう場となっており、宮田市の関係主体についてもこれらの場を介してともに活動する様子が見られる。

まちなかに存在する複数の場を連携させて「きょうどうの場」とすることで、多様な主体が参加しやすく、まちなかの賑わいを得るとともに、村のシンボリックな活動となることが期待できる。

6. おわりに

宮田市は、地域の主体が関わりあい景観の魅力を共有するまちづくりの事業として展開し、定着が見られつつある。考える会は、支援金を活用した戦略を立て、従来共同の場としての性質を有してきた住民や来訪者の目に留まる空間において重点的に活動することで、連携強化や波及効果を狙って活動してきた。

今後は費用面での課題もあるが、蓄積してきた事業の成果と実施するための枠組みを活かし、自立してまちづくりの取り組みを継続していくことが考えられる。これ

表-3 宮田市主催・協力主体の分類と概要

| 分類 | 主体 | 概要 | 村周辺の活動・施設 |
|---------------------|-----------------------------------|---|---------------------------|
| 教育・研究機関 | 早稲田大学（景観・デザイン研究室） | 大学、景観計画策定以降事業協力・地域で研究を行っている | |
| | 日本福祉大学（北信越地域ブロックセンター） | 大学、村出身の学生が多い、村と友好協力宣言を調印 | |
| | 一般社団法人公共経営研究ユニット | 地方自治体のコンサルティングや協働のコーディネート、研究等 | |
| 行政 | 宮田村（建設課・産業振興推進室等）、教育委員会 | 宮田村役場組織 | 役場庁舎・村民会館 |
| 福祉 | 親愛の里シンフォニー | 社会福祉法人が運営する就労継続支援B型事業所、自主製品制作・受託作業・喫茶運営 | 事業所 |
| | 社会福祉法人日本聴導犬協会 | 聴導犬・介助犬の育成 | 本部 |
| | 長野県西御郷わく宮田（・まめ匠） | 就労移行支援事業所 | 事業部 |
| 従来組織・ テーマ型組織 | ふれあいフリーマーケット実行委員会 | 宮田村総合公園ふれあい広場にてフリーマーケットを実施 | 宮田総合公園 |
| | 軽トラ市出店者連絡会 | 商工会・商業部会主催の軽トラ市（食品中心の市）実施 | アルプス中央信用金庫宮田支店・オヒサマの森駐車場等 |
| | オヒサマの森マルシェ実行委員会 | 有限会社わが家の経営する複合施設オヒサマの森においてマルシェを実施 | 店舗 |
| | みやだママサポートの会 | 子育てをサポートしあうグループとして活動、食育講座や情報発信・マルシェ等を実施 | 村内の公園や公民会館等 |
| | 町区氏子総代会 | 神社、氏子組織 | 津島神社等 |
| | 白心寺 | 寺院 | 白心寺 |
| | 仲町モール商店会 | 商店街組織 | 村内の商店街 |
| | 商栄会 | 商店街組織 | |
| | 河原町商店街 | 商店街組織 | |
| | JA上伊那宮田支所 | 農業協同組合、直売所や営農施設等を運営 | |
| 一般社団法人長野県環境保全協会伊那支部 | 環境保全の活動を紹介・助成、環境保全の意識を高めるための活動・支援 | | |
| その他 | 宮田村観光開発株式会社 | 宿泊施設運営（山荘）、飲食業 | 中央アルプス・宮田村総合公園 |
| | JR東海 | 旅客鉄道 | 宮田駅 |
| | アルプス中央信用金庫宮田支店 | 信用金庫 | 支店 |
| | タカノ株式会社 | 椅子等オフィス用品・ばね等の製造販売 | 本社・工場 |

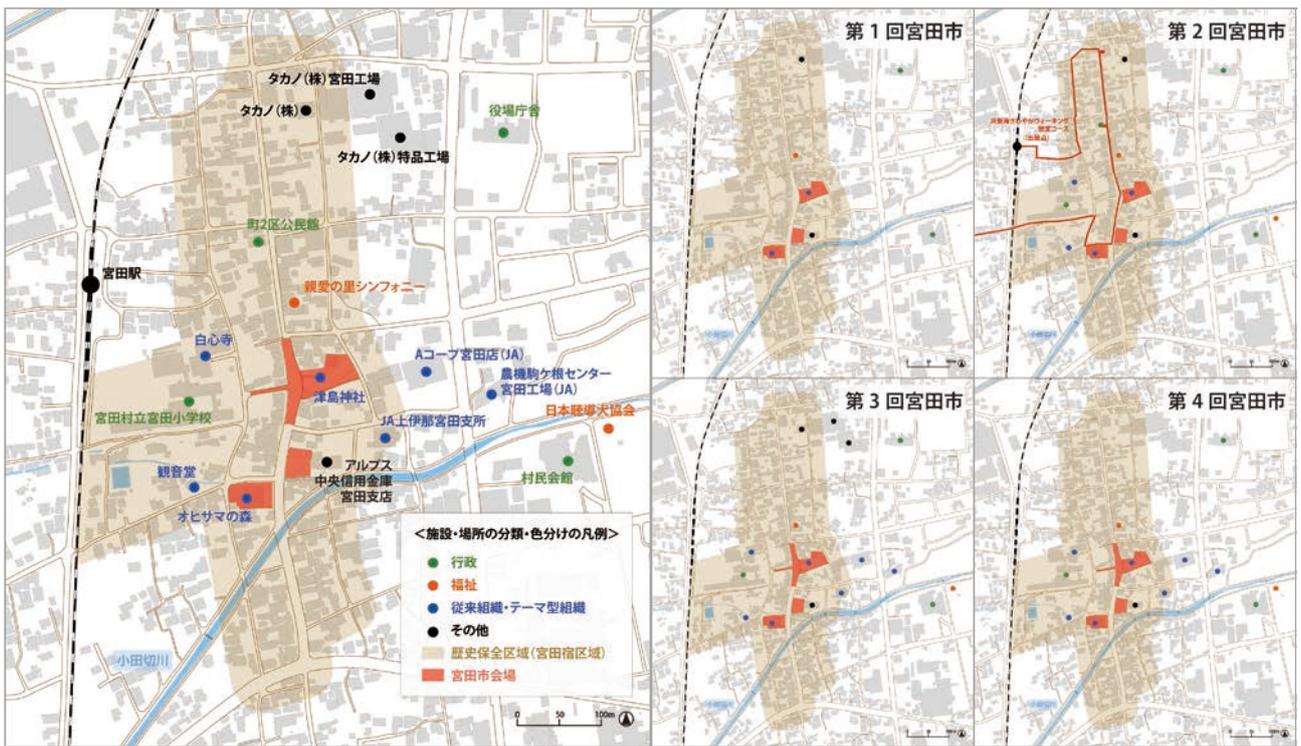


図-8 宮田市の会場及び関係主体の活動施設・場所：(左) 第4回までに主体が関わった活動施設・場所の蓄積，(右) 各回で主体が関わった活動施設・場所

までの連携を元に参加主体を増やし、宮田市に啓発された住民が自主的に地域のまちづくりに興味を持つことで、考える会の事業あるいは宮田村のまちづくりに新しいテーマや取り組みを増やすきっかけとなる。

また、車・ TENT等の貸し借りや地産地消の購買等「モノの移動」に着目すると、主体及び場を介した関係性が見え、宮田市におけるきょうどうの関係性を可視化することができると思われる。

謝辞：本研究の調査において、宮田村の景観を考える会の天野早人氏には多大なご協力を頂いた。厚く謝意を表す。

参考文献

- 1) 田中逸郎：NPOと自治会等地縁型団体の協働による地域コミュニティ再構築の諸要件，コミュニティ政策5巻，pp. 98-120，2007
- 2) 全国町村会：町村における地域運営組織，平成29年4月
- 3) 羽貝正美編著：自治と参加・協働ーローカルガバナンスの再構築，学芸出版社，2007
- 4) 大垣直明，谷口尚弘：ちょうちん制作を媒介としたまちづくり活動の継続性と評価ー「手稲夏あかり」の10年間の活動を通してー，日本建築学会計画系論文集，第564号，pp. 227-234，2003
- 5) 藤本真里，赤澤宏樹，鳴海邦碩，中瀬勲：兵庫県立有馬富士公園における住民グループの主体的活動とその継続の要因に関する研究，ランドスケープ研究，71巻，5号，pp. 811-816，2008
- 6) 中村良夫，鳥越皓之，早稲田大学公共政策研究所：風景

とローカルガバナンス 春の小川はなぜ失われたのか，pp. 93-136，株式会社早稲田大学出版部，2014

- 7) 水野優子，栗山尚子，三輪康一，末包伸吾，安田丑作：まちづくり組織間の連携にもとづく地域運営組織の実態とその課題に関する研究ー神戸市を事例としてー，都市計画論文集，Vol52，No. 3，pp. 998-1005，2017
- 8) 北野幸樹，野田りさ：活動内容の特性と活動組織の意識からみた千葉県のNPO法人におけるまちづくり活動の動向と持続性について 地域主体のまちづくり活動における連関性と持続性に関する研究，日本建築学会計画系論文集，第83巻，第745号，pp. 465-473，2018
- 9) 藏田夏美，後藤春彦，吉江俊：首都圏における趣味の手作りクラフト市場を構成する場の体系と参加者の活動実態 複数の展示即売会でのヒアリング調査を通して，日本建築学会計画系論文集，第83巻，第743号，pp. 33-43，2018
- 10) 朝倉真一，野嶋政和：地域活性化を目的とした社寺境内地におけるフリーマーケットの特性と課題に関する研究，ランドスケープ研究，66巻，5号，pp. 789-794，2003
- 11) 宮田村公式サイト，地勢・面積・所在地など https://www.vill.miyada.nagano.jp/government/pages/root/profile_miyada/10909 (最終閲覧日：2019/07/11)
- 12) 宮田村公式サイト，人口・世帯数 <https://www.vill.miyada.nagano.jp/government/pages/root/archive/population/H31> (最終閲覧日：2019/07/11)
- 13) 長野県宮田村：宮田村景観計画，平成29年4月
- 14) 宮田村の景観を考える会：地域資源を活かしたまちなか再生の手引きー住民と行政の協働，住民まちづくり団体との連携ー，2019 (平成31) 年3月5日
- 15) 宮田村の景観を考える会，趣旨 <https://miyadanya.jimdo.com/%E8%B6%A3%E6%97%A8/> (最終閲覧日：2019/09/01)
- 16) 宮田村の景観を考える会：平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業統括書，2019年3月